

ご挨拶

広島県公立大学法人県立広島大学

学長 森永 力



「第5回広島県学生地域連携活動発表会」の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本発表会は、学生が地域の中で学び、地域の方々とともに考え、実践してきた成果を共有する場として、今年で第5回を迎えます。本年度は、広島県内の大学・高等専門学校15校から学生が参加し、それぞれの地域や専門分野で取り組んできた活動を発表します。

人口減少や少子高齢化、地域産業の担い手不足、医療・福祉、まちづくりなど、広島が抱える課題は複雑さを増しています。こうした課題に向き合うためには、大学だけでなく、地域、企業、行政をはじめとする多様な主体が課題を共有し、それぞれの知見や経験を持ち寄りながら、よりよい地域の姿をともに考え、行動につなげていくことが求められます。大学には、教育・研究で培った知を地域に還元するとともに、学生と地域社会をつなぎ、新たな学びや連携が生まれる機会をつくる役割があります。

本年度は、こうしたつながりを一層広げるため、大学のキャンパスを越え、広島都心部を舞台に開催します。ひろぎんホールディングスとの共催に加え、広島都心会議及びHATAfulをはじめ、多くの関係機関のご協力のもと、地域に開かれた発表会とすることで、大学生のみならず、高校生を含む若い世代が学生の実践に触れ、地域について考え、交流に参加する機会を広げています。

学生の皆さんが地域の現場に入り、そこに暮らす方々の声に耳を傾け、自ら課題を捉え、試行錯誤を重ねながら活動することは、大学で培った知識や専門性を地域社会の中で生かし、新たな気づきや学びへと発展させる貴重な経験となります。その成果を大学や専門分野の枠を越えて共有し、異なる立場や世代の方々と対話することによって、新たな視点や連携の可能性が生まれることも、本発表会の大きな意義です。

広島の課題を誰か一人の課題とするのではなく、それぞれが自らに関わるものとして受け止め、立場や世代を越えて地域の未来をともに見据える。本発表会が、そのための出会いと対話の場となり、ここから生まれたつながりが、それぞれの地域での新たな実践へとつながっていくことを期待しています。

本発表会の開催にあたり、ご尽力いただきました関係機関の皆さま、学生の活動を日頃から支えてくださっている地域の皆さま、そして参加校の教職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

参加される学生の皆さんが、本日の発表や交流を通じて得た学びと出会いをこれからの活動へとつなげ、地域の方々とともに広島の未来を考え、その実現に向けて歩んでいくことを心より願っております。